



9.11 テロ事件から 20 年にあたっての声明

2001 年の米同時多発テロ事件から、20 年が経過した。改めてテロによって命を奪われた方々に心から哀悼の意を表する。

同時に、テロに対する対抗措置として、米国が主導する「対テロ」戦争が、国際法に違反する軍事行動や拷問、盗聴、監視など国際人権、人道法に違反する幾多の行為を繰り返してきたことを改めて強く非難する。

アフガニスタンへの軍事行動は、自衛権の範囲を逸脱した違法な侵略戦争であったと私たちは確信する。その後続くイラク戦争は、国連憲章に違反する明らかな侵略戦争であった。

いずれの戦争も、しいたげられた人々の「解放」が口実とされたが、結果的に報復が連鎖を生んで果てしない武力行使の悪循環を生み、紛争に関わる国家、非国家主体による戦争犯罪行為が繰り返され、莫大な命が奪われた。

米国は対テロ戦争を主導した責任を明確に負うべきであり、不処罰が放置されることは許されない。

アフガニスタン、イラクへの戦争に支持をし、加担行為をしてきた日本の責任も重大であるが、十分な検証もなされていない。

私たちは、9.11 から 20 年にあたり、改めて戦争は平和や人権保護、テロ撲滅の正当な答えになりえないことを確認し、国連憲章第 2 条が規定する武力行使の禁止を国際社会のすべての当事者が尊重すること、国際人権・人道法に反する武力行使が明確に処罰されることを求める。

平和はすべての人が尊厳ある生活を送る最低限の条件である。

以上